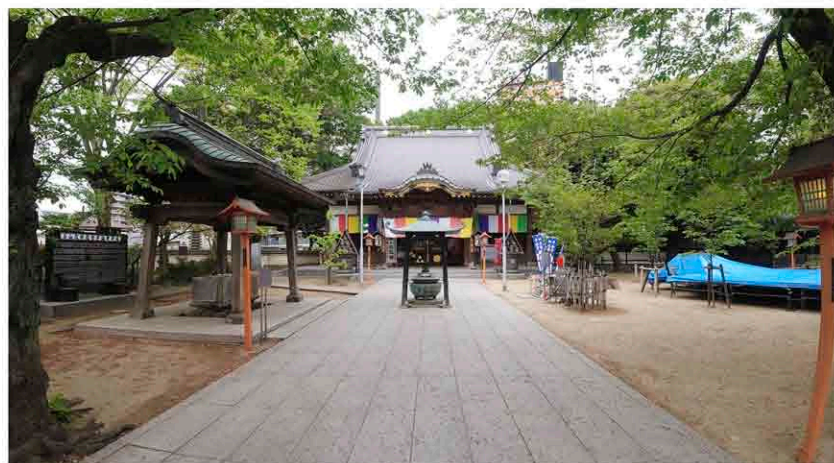


『川越蓮馨寺 第十一回 林崎甚助重信公追悼演武会』



令和6年4月21日 埼玉県川越市にあります蓮馨寺には、居合の始祖 林崎甚助重信公の鎮魂の碑があります。現代の居合原点は、山形県村山市に誕生した林崎公が父の仇討ちの為、剣術を修行していたが、なかなか上達せず、林崎熊野神社の境内で稽古していたが、疲れて眠ってしまい神が現れてその夢から抜刀のヒントを得て、抜きながら斬る技法を会得したと伝わっている。神夢想林崎流居合術として現在もその技法は伝えられています。その林崎公が生涯を終えた終焉の地が川越であり、ここ蓮馨寺に墓碑があったが、朽ちてしまい有志の方々が新たに鎮魂の碑を建立されたもので、毎年桜散る頃に縁のある流派が集まり、流祖の法要と奉納演武会が行われています。今年は11回目となりました。先生と私は第1回から参加していますがコロナ禍で中止になったり、浅草古武道大会と重なったりで、去年は参加出来ませんでした。



今回は本部の正麟館道場から宗家と城所剣士と田代剣士、神明会から清水先生と私の5名が参加しました。



城所剣士と田代剣士は、組太刀7本を木刀で披露されていました。

他流派の技も見ることが出来ますので、同じ流祖から派生した居合を拝見したり、技名は違えども似た技があったりとても興味深いと思います。しかし神夢想林崎流居合術は3尺を超える長い刀を使用して脇差しを接近戦で制する高難易度な技群で、拝見していて時代や流派の考え方と共に技も色々変化しているのだと感じました。

記：元新